

吟道月報

№18

49.1.5

碩心会

凶なたでも淋しいとき、怒りた
い時に吟じたい詩をお持ちだろ
うと思います。これが詩吟の愛
されるゆえんです。

新年のご挨拶

相談役師範 根岸晃彦

あけまして おめでとうございませう。

会員の皆さんが、お家族共々良い新春を迎えられまし
たこと、お慶び申し上げます。

昨年の碩心会は大いに発展し会員数も三百名以上の大
支部に成長しましたことは喜びに堪えませぬ。

最近の全国的傾向としても、詩吟人口は非常に増加し
ていると言はれておりますが、機舌調などではありま
せん。

生き身の人海は、何時も未来に不安感があります。
淋しいときもあれば怒りたい時もある。そのような時
に耐えてくれたり、励ましてくれる詩があるのです。

このよう人達の集合体である会組織の人々が、仲良く
耐え合ひ、励まし合つてこそ会が大いに成長してゆき
ます。

本年は県本部創立二十周年記念大会も行なわれます。

皆さんで楽しく詩吟を勉強してゆきませう。碩心会のよ
り大きく発展するよう 御協力の程をお願いしまして
新年のご挨拶とします。

多言多謝

年頭の辞

会長 三井 雲彦

皆さん、あけましておめでとうございませう。自然は依
然として陽光あざやかな新春を我等に宇し出してしてくれて
います。然し石油危機に端を絶した日本の世情は戦後最

次の危機となりつつあります。伸びるだけ伸ばし、取
れるだけ取った日本人の心情は、今一度原典に帰って
省る必要があります。この時にこそ世情を達観し、古
きを温めて新しさを知り至情ほとばしる詩歌を高らかに
朗誦する吟詠が吾々を正しく、力強く世に處する道
を指示導いてくれます。この一年を倍旧の精進を以つ
て吟じ詠じ誄じ和やかに楽しもうではありませんか。

昨秋不村宏風先生展墓吟行会の折に拝覽した宏風記
念館の遺品の中に「吟嘯正大氣」の書がありました。
天地を貫く真理至純至高の人間性が正大の氣でありま
す。正大氣と心をこめて吟嘯する。又力強く吟嘯する
ことにより、正大氣が体得される。これがあの雄渾な
書となつて、吾々の前に躍動して、深い感動を与えて
いるのだと感じました。今年こそ、心を致して皆林莽
々吟道に精進することを誓つて年頭のごあいさつとい
たします。終りにこの紙面を借りて、年末年始に家庭

の事情で皆々称に、多大な御迷惑をかけ失礼しました事
を、おわびさせていただきます。

吟道夜話(1)

会長 三井 西云仁山

顧みますと吟の道に入つて丁度今春で満十五年になり
ます。毎週一面の錬成日待つのが待遠しく、又、吟の成
長も一進一退何とか吟らしくなつたなあと思つと、大念
あたりで失敗したり、又古いテープを聞いて見ると、や
や冷汗ものの吟が出て来て、うんざりします。唯満身の
力を振り絞つて吟じ続けて来たことが、吟はまづくも今
日の健康につながり、將來の生き甲斐となつた事だけは、
はつきり自覚できます。

今月から紙面の余白あるとき、吟道夜話と銘打つて思
い出すまま、感じたままを、失敗談を交えて書きつづつ
て見ます。夜話ですから、何等一貫したものもなく、修

業課程も前後しますことと予めお断りします。

吟の修業は一節二声三品位、或は一声二節三品位とも言われています。人には各々の声があり性格も違いますが大人しいと婦人に、男子の絶叫する様な声を出せと言つても無理ですが、自分の全力を振るつた声か、吟の余韻の大争な處に出ないと、味はう吟にはなつても訴える丈感と呼ぶ吟にはなりません。先づ声を充分出すことが進歩はおそらくとも五年十年先の、その人の吟の基盤となると思います。絶句を一吟して全体的に或は転句を吟する時に自分の身体の何處にへ喉か、頬か、胸か、腹か、全身か、一番力が入ったかを考えて見るのも、発声法の一つの勉強です。

松井先生がよく言はれた話ですが、川をはさんで吟友相対し、一吟して対岸に誰の声が一番よく届いたかを……よくやつて発声練習をしたと言つて居られました。

海に山に向つて、或は雨の日都座を×切つて大声を

出す練習をするのも大切です。特に会場では、思い切つて声を出し度いものです。

碩心会本部関係

◎ 四十九年春季昇格審査は、三月十七日(日)逗子市図書館ホールで前回と同じ要領で行われます。但し、再審査は日取りの関係で出来ませんので、資格を得られた方は、万難を排して当日参加するようにして下さい。

◎ 一月十五日 恒例の逗子市寒中水泳に呼ぶして逗子吟聲連の合同寒中錬成会が逗子海岸で行われます。逗子葉山地区の方多数の参加をお願いします。場所逗子ビーチ・センター前の海岸。

時刻 午後一時より約三十分

◎ 名簿の訂正事項一月末までに支那毎に取まとめ、総務宛提出して下さい。

◎ 会員の異動

○ 新会員

長柄支部	笠原吉昭 (昭山)	葉山町長柄五六四一二	電〇四六八(75)〇四七四 (再入会)
建設支部	菅野昭弥	亘子市小坪一〇二八〇	電〇四六七(23)〇〇八一 (11月入会)

○ 退会々員

堀内支部 274 須藤 一 (十二月一日)

○ 転籍

25 堀内支部	小池 巫山	建設支部へ (十一月)
78 堀内支部	村川 香山	大船支部へ (十月)
73 桜山支部	藤田のり子	柴舟支部へ (十一月)

堀内支部だより

昭和四十九年元旦、〇時二十分より約三十分間、森戸神社前に於いて、恒例の奉納吟を行いました。参加者約三十名、相模湾頭に吟声高らかに轟きました。

沼間支部だより

十二月三十一日、同勢五名神社寺に詣で除夜の鐘を叩きつつ寂たる山中に初吟、新春を吟声裡に弄ぎました。

以上